様式第2号

自立支援・重度化防止の取組報告書

法人名	社会福祉法人兵庫県社会福祉事業団	事業所名	あわじ荘認知症対応型通所介護事業所
サービス種類	認知症対応型通所介護事業所	事業所住所	淡路市野島貴船229-1
取組分野		取組期間	令和5年9月1日　令和6年8月31日

☑ 機能訓練 □ リハビリテーション □ 口腔ケア □ 栄養ケア □ その他（　　）

自立支援・重度化防止の取組（概要）

令和5年度兵庫県立淡路景観園芸学校「園芸療法を活用した認知症進行予防プログラム開発と効果検証」（豊田ら：淡路市受託研究）に協力機関として参加し、収穫作業を伴う植物の栽培が利用者の意欲向上や記憶の想起に繋がる可能性を感じた。研究期間終了後は事業所の活動として施設構内を耕し、野菜や花の栽培と収穫を継続して行っている。

自立支援・重度化防止の取組（具体的内容）

タイトル	収穫を通して、楽しみとやりがいを感じられる園芸活動
きっかけ（経緯）	県立淡路景観園芸学校の研究に参加し、短期間で収穫できる園芸活動が記憶の想起や楽しみにつながることを感じ、研究協力終了後もデイサービスの活動として定着した。
取組の特徴	認知症をもつ利用者に種まきから収穫、袋詰めや調理の一連の工程の中で、手続き記憶の維持やエピソード記憶の想起をはかるとともに、楽しみややりがいを提供している。

内容、事例（詳細）

1.「園芸療法を活用した認知症進行予防プログラム開発と効果検証」研究協力期間（令和5年6月～令和5年12月）

検証期間中9月～12月に15回、園芸療法士による園芸療法プログラムを実施。期間中は給水式水耕栽培装置をデイサービスに設置し、ハツカダイコン、ルッコラ、バジルの播種、収穫を行った。利用者は園芸療法士の指導やデイサービス職員の介助を受けながら、種播き、間引き、水やり、伸びた根の切除、収穫等の作業の中で、新しい作業への取り組みや他者との協力などの行動が見られた。

園芸療法士の指導により間引き、根の切除、生育状態などの作業を行う

2．デイサービスでの活動期間（令和6年3月～令和6年8月）

デイサービス横の敷地に家庭菜園を模した畑を耕し以下のように栽培、収穫を行った。

・ジャガイモ（きたあかり）…種植え3月、収穫7月
・ミニトマト…種植え5月、収穫７、８月
・ゴーヤ…苗植え5月、収穫8月
・スナップエンドウ…苗植え4月、収穫6月
・トウモロコシ…6月苗植え、収穫8月
・梅…あわじ荘に自生している。収穫のみ7月
・にんにく…4月苗植え　生育せず失敗
・ひまわり…4月種植え

上段左から　ジャガイモの植え付け、梅の実の収穫、スナップエンドウの収穫
下段左から　トウモロコシの収穫後、ミニトマトの収穫

３．園芸活動による心身機能低下抑制の効果

（１）長谷川式認知症スケール（ＨＤＳ－Ｒ）（令和5年9月・令和6年9月実施）およびバーセルインデックス（Ｂ．Ｉ）（令和5年11月・令和6年5月実施）の比較（園芸活動に参加した利用者16名）

ＨＤＳ－Ｒ　改善　　5名　うち　Ｂ．Ｉ　改善2名　変化なし3名　低下0名
ＨＤＳ－Ｒ　変化なし 0名
ＨＤＳ－Ｒ　低下　　11名　うち　Ｂ．Ｉ　改善4名　変化なし4名　低下3名

ＨＤＳ－Ｒで改善している場合はＢ．Ｉでも維持、改善しているが、ＨＤＳ－Ｒで低下がみられても、Ｂ．Ｉで低下は少なく、維持のみならず改善している方もおられた。

（２）園芸活動を通して見られた利用者の様子

①．記憶について
・前回植えた植物について「ジャガイモは育っているか」「植えたヒマワリはどうなった」など関心を示す発言が見られた。
・昨年度の水耕栽培について断片的な記憶が残っている発言が見られた。
・収穫した野菜を見て「もう少し肥料が足りないな」など自身の経験の記憶と比較していた。
・前回の活動は忘れていても「今日は種植えをしましょう」「水やりをしましょう」と作業内容を伝えると以前の記憶が残っており、自然に作業に取り組める方もいた。

②意欲や感情について
・普段は自分から動くことは少ない方が職員に教えたり、一連の作業を自信を持って手際よく行っていた。
・デイサービスを休む旨の発言が多く、何事にも消極的な方がいざ作業を行うと腰の痛みを話しながらも積極的に取り組んでいた。
・普段は発語が乏しかったり表情の変化が少ない方も収穫時には「おお」「綺麗やなあ」「大きいな」などの感想を自ら発していた。
・日常的に園芸や農業をしている地域柄でもあり、園芸活動に馴染みがあるためか、他のレクリェーションと比べ親しみをもって取り組みやすく、言葉がけをして誘うと断る方はおられなかった。

４．まとめ

園芸活動の中でも、収穫の工程を取り入れることで利用者の意欲だけでなく、記憶の想起や定着の助けになることを感じた。今後もさまざまな植物の栽培に挑戦し、園芸活動を通じて支援に取り組みたい。